

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

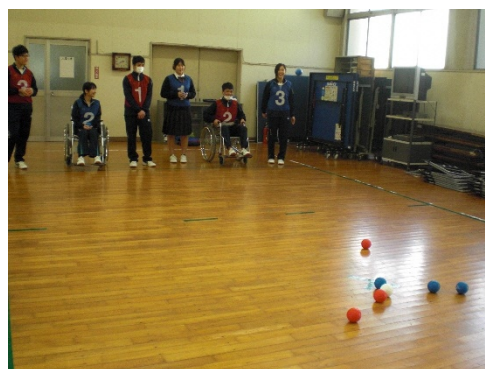
1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	福岡県立三井高等学校 2年生 31名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体 育)</p> <p>② 行事名 (〇光ッ・パリ光ッ教育 障がい者スポーツ「ボッチャ」体験競技会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目 標 (ねらい)	障がい者スポーツを体験することにより障がいに関する理解を深めるとともに、パラリンピックや障がい者スポーツへの関心を高める。また、仲間と協力して競技会を実施することにより共生社会の実現に積極的にかかわろうとする態度を育成する。
5 取組内容	<p>1 9月上旬 事前授業 体育授業において 2年2組 肢体不自由生徒（車いす利用）にボッチャ競技を体験させる</p> <p>2 1月上旬 ボッチャルール事前学習</p> <p>3 1月中旬 競技会チーム決定</p>

4 1月29日

- 5限 1 趣旨説明等（ピロティ）
2 ボッチャ競技紹介及びルール説明
3 チーム確認
6限 4 競技会（3チーム総当たり予選リーグ・決勝リーグ）
※各チーム1名は車いすを使用して競技を行う
5 感想文



映像で競技紹介、ルール説明を行った



初めてのボッチャ体験・・・



どちらが近いか・・・？



チーム全員で得点確認！！

6 主な成果

- ① ボッチャ競技を初めて体験する生徒が多かったが、車いすを使用して競技に参加することで、障がいがあり車いすを使用している人でも楽しめるよう、ルール等が工夫されていることを実感した生徒が多かった。
- ② ボッチャ競技は、障がいの有無に関わらず、誰でも楽しく競技することができることがわかった。
- ③ 競技体験を通して、コミュニケーションをとり、仲間と協力することでチーム力を高めることが出来ると気づくことができた。この体験が社会生活においても生かされることを期待する。

<生徒の感想より>

- 初めてボッチャを体験してみて、始めはあまり楽しくないかなと思っていましたが、やっていくうちにとても楽しくなりました。パラスポーツを知らなかったの
でこれを機会にもっと知りたいと思い、興味を持ちました。
- 初めてランプスを使ってボッチャの試合をしました。試合はぼろ負けでしたが今
後もボッチャがうまくなるよう練習したいです。今回はチームメイトとうまく作
戦を立てることが出来なかったことが敗因だったのでコミュニケーションをしっ
かりとることが重要だと感じました。(肢体不自由 車いす利用生徒)
- 初めてボッチャを体験して、こんなスポーツがあるんだな思い、この競技によっ
ていろいろな交流ができるだろうなと思いました。自分だけでなく、他のチーム
も楽しく体験できてとてもよかったです。
- ボッチャ競技はルールがとてもシンプルで、車いすでも参加できるし、子供から
高齢者までみんなで楽しめる競技だと思いました。来年のパラリンピックではテ
レビで中継を見たいと思いました。



- ボッチャは健常者でも車いす利用者でもだれでも楽しめるスポーツだと感じまし
た。チームのメンバーと協力して、とても楽しく競技することが出来ました。機
会があればまたやりたいです。
- 最初はあまり興味がありませんでしたが、実際にやってみるととても楽しくて、
パラスポーツにとっても興味を持つことが出来ました。投球がどうなるか、ドキド
キ感があり、チームで盛り上がってみんな笑顔で行うことが出来ました。
- 決まった場所から動かずにボールを投げるのが難しかったです。チームの仲間と
相談したりアドバイスしたりコミュニケーションをとりながら盛り上がることに
出来てとても楽しかったです。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>① 福祉教養コース（2年2組）には車いす利用の生徒がいるので障がい者の日常生活により関心が高まることを期待してこのクラスで競技体験会を実施した。</p>  <p>② 一般生徒にも車いすを使用して競技に参加させることで、車いす利用者の活動を体験させることが出来た。</p>  <p>③ 来年度の近隣特別支援学校との交流会も意識して、今年度の競技会を実施することが出来た。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>① 他の学校行事との日程調整が難しかった。 年度途中で新たな行事を設定することはかなり難しいので、前年度に行事予定を設定しておくのが良い。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>① 太宰府市在住の道下美里氏を講師に招いての交流会を検討する。 ② ボッチャ競技を通して近隣の特別支援学校との交流競技会の実施を検討する。</p>